

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800070		
法人名	社会福祉法人 全和会		
事業所名	グループホーム 鮎田		
所在地	福岡県飯塚市鮎田1522-1		
自己評価作成日	平成27年12月10日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成28年1月11日	評価結果確定日	平成28年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中、その人らしい本来の姿で気兼ねなく生活できるように職員全員が、本人、家族との関わりを持てる支援ができるように取り組んでいます。また、医療機関との連携を行い、家族と一緒に看取りのできる施設を目指して支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム鮎田は、幹線道路沿いにありながらも、自然も多く残り緑に囲まれた地域に位置する木造平屋建ての1ユニットの事業所である。母体法人は、高齢者福祉施設や障害者福祉施設等、幅広く運営していることから、平素より運営面で連携が図られ、そのことが本事業所の強みになっている。入居者の高齢化に伴い、外出や地域行事への参加が難しくなった面はあるものの、職員は工夫を凝らしながら、日々の暮らしの支援はもとより、行事や外出、防災訓練などを行っている。特に日中活動には力を入れている様子で、入居者の要望に応じて、豊富なレクリエーションメニューを取り入れている。また入居者の多くは地域住民であることから、近隣に家族や友人、知人も多く存在し、面会や行事の際の協力も頻繁になされており、地域に開かれた事業所となっている。職員間の連携も良く、会議でも活発な意見交換がなされ、業務にも効果的に反映されている。日々の記録についても詳細な記述が確認出来、誠実な仕事ぶりがうかがえる。以上、本事業所は、現状に甘んじることなく、地域と共に、入居者と職員が共に日々の楽しみや充実を積み重ねてゆく、今後の展開が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	それぞれの現場の思いを統合した、実現可能な内容となっているので職員全員が、日々の実践に活かしている。	設立時、職員間で話し合いを行い、地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を作り上げている。毎月の会議では、必ず理念を取り上げ、振り返りを行うことで、職員間での共有を図り、その実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して、地域行事等の案内を受けるが、時間の都合上参加がなかなか難しい状態であるが、ホームの行事には近所の方の参加や協力もあり、利用者の方への面会など地域の方との交流の機会が増えている。	入居者に地域住民が多いことから、日常的なつきあいが見られる。自治会に加入しており、市報や回覧板も定期的に届き、地域住民として認知されている。地域行事の案内も受けるが、参加出来ていないのが現状である。但し、その点を補う取り組みとして、敬老会やクリスマス会、餅つき等の行事を定期的に企画し、地域住民を招いている。参加者も多い。またAED設置を地域に周知する等、情報発信にも努めている。	地域行事に参加困難な理由として、「入居者の高齢化」が挙げられているが、全員参加でなくとも、個別対応で出来る範囲・人数からの実施を期待したい。また事業所の課題として挙げられている「外出、外部との交流の機会が少ない」を改善するためにも、一層の取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣からの入所者の方も多いため、家族の来訪や近隣の友人の来訪があり地域の方とのつながりが日々の実践に活かされている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催して、ホームの運営状況の報告に留まらず積極的な意見の交換の場として活用されている。災害対策等地域と密着した会議となっている。	定期的を実施している。行事や予定等、運営状況についての報告を行っている。参加者から希望や助言を受け付け、各々に対して対応状況等を説明している。議事録からは、前述の点を踏まえ、忌憚のない意見交換の様子が確認出来る。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員や市役所担当者との連携を行い、施設運営についての助言や問題点の指摘を受けたり、協力関係を築くよう取り組みを行っている。	地域密着型連絡協議会に加入し、役員を務める。部会や会議も多く、これらの活動を通して、市と連携を図り、講演等の企画を行う等の活動を行っている。また日常的にも連絡取り合い、情報交換や相談を行い、関係強化に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関が国道沿いに位置しており交通量も多い為事故防止の為、職員が手薄になる時間帯はやむを得ず施錠を行っている。利用者、家族、地域の方には説明を行い了解を頂いているが、身体拘束や虐待防止に関する職員の理解と認識を高める為、内部研修や外部研修を行っている。	今年度、「身体拘束ゼロ宣言」登録を行う。計画的に内外の研修を実施・活用し、対象となる具体的な行為について職員間で理解を深め、周知に努めている。これらの活動を通して、「ベッド柵」の課題についても取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会や研修で学んだ事を日々の実践の中で活かし、防止に努める。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が制度の理解を高めており、家族、来訪者へのパンフレット等を回覧できるようにしている。	以前、制度利用者が入居していたこともあり、職員は制度の内容、必要性について理解しており、周知も図られている。また家族等についても、説明会を案内する等、制度の周知と広報に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族の方が理解、納得して頂けるように、契約終結の前に十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族の方の面会が多く、もしくは利用料の支払いの際に意見や要望が気軽に話せるように声掛けを行い、出された意見等については随時話し合い、運営に反映できるように努めている。	入居者とは日々のかかわりを通して、思いや意見の把握に努めている。家族については、家族会はないものの全体的に協力的な家族が多く、面会や行事参加も積極的であることから、その際にコミュニケーションを密にし、意見の収集を行っている。出された意見についても、可能な限り、柔軟、且つ迅速に対応し、運営に反映出来るよう努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催して、職員の意見や提案を聞く機会を設けて、随時検討、話し合いを行って運営に反映できるように実践している。	全職員参加の会議を毎月実施し、職員間の意見交換や、運営に関する意見・提案の場としている。活発な意見交換がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力に応じた勤務状況を把握して、個々人がやりがいを見つけ、向上心をもてるような職場環境、条件整備に努める。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別は問わないが、勤務内容によっては話し合いとなることもある。また職員についても自主的に研修や資格習得の希望があれば、事業所側も積極的に受け入れ体制を取るよう配慮している。	職員の採用にあたり、性別や年齢等を理由に排除することはない。実際、幅広い年齢層の職員が働いている。職員の研修についても奨励し、必要に応じて費用等の負担を事業所が行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育に関する内部研修の充実に取り組んでおり、倫理規定や高齢者虐待防止、身体拘束について学ぶ機会を設けている。認知症への理解についても研修計画に盛り込んでおり、職員全員が、日常現場の中で利用者に対する人権尊重を心かけている。	虐待防止や身体拘束をしないケア、認知症に対する理解等、実際の業務に即した内容を通して、内外の研修の機会を活用しながら、人権に対する理解と、事業所全体での周知に努めている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの能力、勤務状況を把握し、毎日の勤務の中で、職員のスキルアップを図っており、現場を重視した、働きながらのトレーニングを進めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でのグループホームとの交流や他事業所の連絡協議会などに参加して、互いのサービスの質の向上を高めるように取り組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談して不安や要望等を伺い、施設での生活に馴染んでもらえるように行事などに参加して頂いたり安心して生活出来るように信頼関係の構築に努める。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学、面談を行い家族等の不安、要望を伺い、十分な説明を行い施設での生活が安心して送れるように家族との信頼関係の構築に努める。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等との面談により状況や要望などを把握し、本人、家族が必要とする支援を努める。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長年培ってきた個々人の人生、経験に基づきその人らしく暮らせる場所として又、人生の先輩として職員も共に学び共有できる関係を築いていく。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族との在宅生活での絆を大切にしながら助言、情報を交換して本人、家族を支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からの馴染みや住み慣れた家との交流が途切れないように外部からの訪問、外出など常時オープンに対応できるような支援に努めている。	入居者に近隣住民が多いことから、家族や、友人・知人である地域住民の面会や行事参加を通して、馴染みの人との関係継続が図られている。場所についても、外出時やドライブを利用して、入居者の望む場所を訪れる等の支援を行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々人の性格等を把握して利用者同士の間に職員がさりげなく関わり、お互いに無理のないような関係が保てるような支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などで契約終了後も必要に応じて経過を伺ったり、亡くなられた方の家族に対しても相談、支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者の希望や意向の把握に努めている。本人、職員間に偏らず家族等の協力も重要である。入所前の本人の生活歴、趣味嗜好などの情報収集等にも努める。	日常的なやりとり、何気ない会話や行動から本人の思いや意向等、潜在化するニーズを把握することに努めている。知り得た情報は、日誌への詳しい記録や申し送り、会議等を通して職員間で共有され、より本人本位の支援につながるよう努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族等に面談してアセスメントを作成し、また他の事業所等より情報提供を受けて、生活環境や疾病等の把握を行い、本人の長年の生活歴を壊さないように努める。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の言動、行動の観察を行い、小さな変化を見逃さないように一人ひとりの状況の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族等の要望を伺い、担当職員を交えた担当者会議を行い介護計画書の作成を行っている。又必要があればかかりつけ医の助言、意見等を聞き介護計画に反映している。	担当者会議での意見交換、詳細な日々の記録を活用して、本人の意向やニーズ、関係者の多角的視点を取り入れられた計画作りに努めている。	担当者会議や、詳細な記録等、入居者一人ひとりの現状を把握するツールは整備されているが、実際の計画については、「変更なし」の箇所が多い。より、本人本位で現状に即した計画作りの観点からの改善を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践の中で、気づきや疑問に対してその都度朝の申し送り検討し、介護計画の見直しを行い実践へ反映している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人のケアプランに支援が主だが、個人の状態、状況は日々変化している為、その時々に対応出来るように努めて支援を行いたい。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の家族、知人の方々との交流の中で、昔ながらの畑の作り方など一緒に考え、作業をしたりと生き甲斐を感じ楽しむことができる環境を今後も維持出来るように支援を行いたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望される医療機関への受診を支援している。又殆どの利用者が在宅医療総合管理を希望されて、月2回の内科医の訪問診療を受けられて日頃の健康管理をかかりつけ医と連携をとっている。	事業所として、本人・家族が希望するかかりつけ医への受診を尊重する方針である。現状は、24時間体制である在宅医療総合管理を希望し、定期的な往診を受け、必要に応じて専門医への受診を行っている。その際も家族が同行出来ない場合は、職員が対応しており、本人が納得し安心出来る医療体制が築かれている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、利用者の言動、行動の異変に気づいたときには、速やかにかかりつけ医の看護師に連絡を行い対応出来るように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が、入院又は、見込みがある際は、かかりつけ医と入院先の病院関係者との情報交換を密にし、本人、家族が安心して治療に専念できるように支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階に応じて家族、医療機関との話し合いを行い家族の意向に沿った介護が行えるように、職員全員で情報を共有して家族と一緒に看取り介護が行えるチームでの支援に取り組んでいる。	事前に医師が家族に説明を行い、意向の確認を行っている。これを踏まえ、家族や医療機関と方針を共有しながら、重度化や終末期に向けた支援に取り組んでいる。現時点では、全員が看取りを希望している状況である。職員は、状態変化の都度、医師に連絡する等、日頃から連携を深めながら、本人や家族の思いにそった支援に努めている。これまで看取りの事例が1件ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作成し、職員全員が把握、内部研修等で訓練を行い実践力を身につけている。今年度よりAEDの搬入を行い使用操作について定期的な点検、研修を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の自衛消防訓練を実施している。運営推進会議等で地域の方々にも協力、参加の声かけをしている。又、日々の勤務の中で常に緊急時に対する緊張感をもつ事を意識している。	夜間想定も含め、年に2回防災訓練を行っている。消防署の立ち会いが出来ない時には報告を行う等、連携を図っている。消防設備点検届けの提出も確認出来る。運営推進会議を活用して、自治会長を始め、地域住民に参加依頼を行う等、効果的な対策となるよう主体的に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し、特に声かけや対応には、十分注意をはらっている。個人情報に関しては、事務所に保管、管理をしている。又、プライバシーに配慮した対応に努める。	プライバシーについて、倫理規程や内部研修の年間計画に盛り込む等、事業所全体で意識的に取り組んでいることがうかがえる。また家族等の面会も多いことから、平素より羞恥心に対する配慮や、個人情報の取り扱いについても留意しながらの支援に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中、利用者との関わりで、自立できる部分を引き出し、何をしたいのか、本人の思いや希望を素直に話せるように働きかけ支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	長年暮らしてきた生活ペースを出来る限り崩さないように一人ひとりに添ったリズムを保てるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣服の調整を行い、自己決定出来る利用者には本人の好みで選んで頂く。又、散髪等も無理強いしないが、定期的に施設で行い、本人の行きつけの店があれば家族等と相談し支援できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや、味見を職員と一緒にしたり、食前後の手伝いを積極的にして下さる。又、一人ひとりの食べたい物を聞き、献立のなかに取り入れ喜ばれ、食欲が増すように工夫している。	職員が当番制で調理を行っている。入居者は、テーブル拭きや、おしぼりたみ等、出来る範囲での役割を担っている。食事中は、職員も同じものを食しながら、言葉掛けやBGM等の配慮を行い、和やかな雰囲気となるよう努めている。また外食が困難になっていることを受け、弁当を取ったり、法人内の事業所が作る手作りうどんの提供や、誕生日のリクエスト食を実施する等、食が楽しめる試みを行っている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を主にした内容で、栄養バランスも考え、一人ひとりにあった摂取量又、その時の状態によって内容を変えていくよう支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず、口腔ケアの声かけ、見守り介助のいる方は介助を行い、口腔内、義歯の状態の確認をして清潔保持に努める。又、ねん2回歯科検診を行い口腔ケアの指導を受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを職員が、把握し、声かけ誘導を行いその際自尊心を傷つけたり気分を損なわないようにしている。又、夜間のパンツと交換時は、睡眠の妨げにならないよう速やかに行う。	入居者の高齢化に伴い、自立者は皆無で、全員何らかの支援を必要とする。職員は、一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、タイミングや言葉掛けを工夫しながら、可能な限りトイレ誘導を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	殆どの利用者が、緩下剤を服用されており日々、調整している。日頃から食事の内容、水分の摂取量に気をつける。又、日中に軽い体操やレクリエーションなどで身体を動かしたりと工夫に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を行っており利用者の体調や希望に合わせて支援している。入浴を拒否される方にも無理強いはいないようにしている。又、日頃見えない部分の身体の観察も行い変化があれば、すぐに対応するように努める。	基本的に週3回、午後入浴を実施している。シャワー浴は、希望すれば、いつでも対応出来る。入浴時は、歌を歌ったり、回想法を試みる等、コミュニケーションを深めながら、一人ひとりの状態や意向に応じた入浴支援を行い、快適な時間となるよう努めている。拒否する方には、言葉掛けや、案内のタイミング等を工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムに合わせて職員が、声かけ、見守りを行う。毎食後に休まれる方もおられたり半日眠ると気分が良くなったりと、その時々状況、状態に合わせて安心できるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、利用者全員の服薬内容を把握、理解しており変化があれば、すぐにかかりつけ医師に報告し、状態の変化の確認に努める。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の性格や生活歴を把握し、その人らしい楽しみを提供する。けして無理強いせず、その時々に合わせてやりがいや喜びを持てるように支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、施設の周りを職員と一緒に散歩したり季節ごとの花を見にドライブに行ったりと、出来る限り戸外に出れるように支援している。又、帰宅願望が激しくなると家族と相談し日帰りや一泊で自宅へ帰られたり家族の方々にも協力していただき支援に努める。	入居者の高齢化に伴い、外出については、様々な制約が出てきており、実施が困難な状態ではある。そのような中、職員は、入居者の状態や天候、気候を配慮しながら、近隣の散歩や、花見等の季節のドライブに出掛ける等、可能な限りの外出支援に努めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者が、お金を持つ事が不可能である。施設が、預かり金として管理し、本人の必要に応じて手渡しする事もある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方々の必要に応じた対応をしている。家族の方々から電話がある時は、本人と代わり気兼ねなく話が出来よう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けのある食堂兼居間が、開放的な共有空間である。台所から食欲をそそる美味しそうな匂いがして食事の時間を身体で感じる。又、穏やかな音楽など流れて心地良い午後のひと時を過ごせる空間です。季節を感じる掲示板の内容等の工夫をしている。	談話室兼食堂の共用の空間は、天井高く、採光良い。廊下の各所にも天窓があり、室内は全体的に明るい。掲示コーナーが設けられ、入居者の暮らしぶりが分かる写真や、季節の飾りが、暮らしに彩りを与えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで居眠りする方、傍らでは、テレビを見られる方、気の合ったもの同士お喋りをしたりとそれぞれが、自由に過ごせるよう支援している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の今までの生活の中で、慣れ親しんだ物や好みその人に合った環境づくりを支援するよう努める。	各室には、クローゼットと洗面設備が完備されている。入居者の使い慣れた物や好みの物が持ち込まれている。中には俳句の本やお茶のセットがあり、本人本位の空間作りに努めていることがうかがえる。一方、簡素な居室も散見される。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや入浴、出来る限り自力で出来るように施設内外の環境整備に努め、自立心を無くさず安全かつ安心して生活が出来るような工夫に努める。		